

# 中村病院の健康アドバイス

## 「ピロリ菌除菌療法」のご案内



医療法人みどり会  
中村病院  
消化器外科・肛門外科  
医長 金川 泰一朗

皆さんこんにちは。2013年2月にヘリコバクター・ピロリ菌感染胃炎にピロリ菌除菌療法が保険適応となりました。1983年にピロリ菌が発見されて以来、ピロリ菌は胃癌の明らかな原因になっていることが明らかにされ、胃癌発症予防に除菌が有効であることが分かってきました。今日はこれについて説明します。

胃にピロリ菌が感染すると、数週間から数ヶ月以内に慢性活動性胃炎を生じます。生体は菌を排除しようと白血球が働くのですが、粘液中にピロリ菌が防御されてしまい、白血球からの特殊な蛋白が逆に粘膜をもろくして傷害してしまいます。このヘリコバクター・ピロリ菌感染胃炎が継続しますと、萎縮性胃炎から（あるいは経なくても）胃癌を引き起こします。およそ日

本人では約80%が10〜20年を経て萎縮性胃炎に移行し、その一部が胃癌になることがわかっています。

どうやって知らないうちに感染しているのでしょうか。日本人の多くは5歳以下の子供の時に感染し、家族内の口から口への感染（キス、口移しで食べ物を与える）、井戸水をのむなどが原因とされています。

感染が明らかで除菌された場合には、胃癌を予防することができません。またストレスがかかった場合でも胃十二指腸潰瘍にはならず、胃炎のまま経過します。すでに2000年に胃十二指腸潰瘍にピロリ菌除菌が保険適応となったから、潰瘍で悩む人は減っています。

ヘリコバクター・ピロリ菌感染胃炎に罹っているかいないかはどうやって調べるのでしょうか。これには胃内視鏡検査とピロリ菌の両方の検査が必要です。ピロリ菌の検査には、胃粘膜の組織を取って調べる迅速ウレ

アーゼ試験／検鏡法／培養法、便中ピロリ菌抗原測定法、血清・尿中抗ピロリ菌抗体法、お薬をのんで息を吐いて調べる尿素呼吸試験の6種があります。胃内視鏡をしなくてもピロリ菌の検査は可能なのですが、順序としてはじめに内視鏡によつて胃炎の診断を行い、胃癌がなくその他の除菌以外の治療が必要な病気を除外することが求められます。

ヘリコバクター・ピロリ菌感染胃炎が診断された場合、2種類の抗生剤と胃酸を抑えるPPIのお薬を1週間内服するのが基本です。内服除菌終了後、およそ6〜8週間後に除菌されたかどうかの判定を6種類の方法で調べますが、内視鏡検査でなく便、尿、呼吸試験でも行えます。その試験でまだピロリ菌が残っている場合には、お薬をかえて2次除菌を行います。40歳代までの方に除菌を行うと、除菌によつて胃癌が90%以上抑制できる（撲滅できる）と仮説されています。

「胃内視鏡はつらいから遠慮したい」といわれる方もおられると思います。ご相談くださいれば消化器内視鏡専門医として常勤しておりますので、挿入もゆつくりと少し眠たくなるような注射も用いて楽になるよう検査いたします。

### 記事に関するお問い合わせは

医療法人みどり会 中村病院  
〒573-0104  
枚方市長尾播磨谷1-2834-5  
TEL (072) 868-2071